

6 むすび

～子ども市会からの提案を受けて

名古屋市会は、子ども市会が終わってからの初めての議会(平成24年9月定例会)の最終日である10月11日の本会議で、子ども市会からの提案の実現に向けた決意を表明する決議を行いました。

さいごに、この決議の全文をごしょうかいします。

なごや子ども市会からの提案の実現に向けた決議

なごや子ども市会は、名古屋の将来を担う子どもたちに、市政への関心や政治に対する理解を深めていただくとともに、被災地とのきずなを深めることを趣旨として、市内在住・在学の小学5・6年生75名により開催されました。

子ども議会は、戦後の民主主義教育の一環として各地に設置され、活発な議論が行われ、なかでも、名古屋市子ども議会は、戦後、東山動物園に生き残った2頭の象を、台東区子ども議会が借りに来たことから始まった象列車で有名です。

このように歴史ある子ども議会を、21世紀に入り初めて開催するに当たり、75人の定数をはるかに上回る294人もの子どもたちから応募があり、厳正なる抽選の結果、21世紀初の子どもの議員75人が選ばれました。

子どもたちは、自ら興味のあるテーマを選び、そのテーマごとに委員会に分かれて話し合いました。それぞれの委員会では、初日の7月14日に実地調査を行う施設を決定し、2日目の7月20日には施設の実地調査を行い、3日目の7月27日には調査結果を踏まえ、本会議で発表する内容を話し合いました。そして最終日の8月19日には本会議が開催され、各委員会の意見が発表された後、これまで子どもたちが話し合いを重ね、まとめ上げた思いと決意が「なごや子ども市会宣言」として採択されました。

以上のように、なごや子ども市会で発表された意見は、名古屋の将来を担う子どもたちが、名古屋を笑顔があふれるまちにしようという共通のテーマのもとに集まり、限られた時間の中で、話し合いを重ね、まとめた想いを、大人である私たちに投げかけているものです。名古屋を良くしたいという思いに大人も子どももありません。私たちは、子どもたちから投げかけられた思いに応えなければなりません。

名古屋市会は、市民に開かれ、市民に身近で存在感のある議会として、なごや子ども市会で発表された意見を真摯に受け止め、その中でいただいた子どもたちからの様々な提案について市当局にも働きかけを行うなど、その実現に向けて最大限努力することをここに決意します。

以上、決議する。

平成 24 年 10 月 11 日

名 古 屋 市 会



① 10月11日の名古屋市会本会議のようす
～全員起立で議決しました